

第10回日野町民ミュージカル公演 「きらりこの町」 ～遠いむかしむかし 僕たちの町おこし～



演出から舞台裏まで 支える皆さんが思いを語る

11月19日と20日の2日間、町文化センターを会場に、第10回日野町民ミュージカル「きらりこの町」が上演されました。10回目を迎えた今年は、総勢33人が出演。今回はオシドリやカップなど日野町にゆかりのあるキャラクターたちが力を合わせてまちづくりをする、夢や愛、絆の力を教えてくれる感動のミュージカルです。

今回は初の3回公演を行い、どの回も客席はほぼ満員に。大きな声、豊かな表情で演じる出演者に惜しみない拍手が送られました。今や町外にも多くのファンがあり、その高い芸術性が評価されています。

また、今年は和太鼓パフォーマンス集団「舞太鼓あすか組(奈良真)」が特別出演し、10回の節目を盛り上げました。

子どもたちが

生き生きできること

それが、原点！

10回目は「日野」らしく

第1回から10回まで脚本・作詞・演出・演技指導を手がけ、大きな感動を与えている渡邊勝子さん。

節目となる10回目への思いを尋ねると「カップやオシドリなどを登場させ、いちばん『日野』らしい、原点に帰ろうと思いました。人と人とのつながりが強いこの町がさらに輝けるよう描きました」と笑顔で話します。

子どもたちが成長するために

「日野町では、これまで人前で自分を表現することが苦手で、自分の殻を打ち破ることができない機会や場がなかったのではないのでしょうか。町民ミュージカルは表現するこ

とを通し、日野の子が成長する場所としての役目を持つています」と振り返り、「子どもたちが生き生きできることが原点」と、10回まで続けて来ました。

また、演じることについて「私は『入場料をもらったら、役者だよ』と子どもたちに言います。お客様を楽しませることに妥協してはいけません。やり遂げた充実感は何にも代えられないものですから」と熱い思いで演技指導をする渡邊さん。

「何度でも繰り返し練習をさせ、時には叱ります。役の人物が何を言おうとしているのか理解できる子は表現力も出ます。最初、伝えるための

表現の仕方など苦労して来ました。10年目になりますが出演する子どもたちは、表現することが大好きになっています」と、練習する舞台上の子どもたちを見つめます。

元気の源

うまく表現できたときは、子どもたちが照れるほど褒める渡邊さん。「元気をもらっているのは私の方」と楽しそう。厳しい指導について子どもたちに「私は信頼関係ができていると思っています。この子たちはどう思っているのかな」。その笑顔は子どもたちに負けないくらい生き生きしていました。



脚本・作詞・演出・演技指導
渡邊勝子さん (広島県三原市)



年齢の小さな子どもたちも堂々と演技する

文化的取り組みに、これだけ力を入れている町はほかにはない これからも町の誇りとして取り組みを

子どもたちの成長を実感

町民ミュージカルにかかせない「歌唱指導」をしている小椋美香子さん。ソプラノ歌手として、コンサートやオペラなどでも活躍されています。2回目から監修や歌唱指導をして来た自らの指導については「厳しいと思います」とひとこと。

子どもたちについては「指導に対する飲み込みが早くなりましたよ。出演者として責任感を持っているのが分かります。『良いものを作りたい』という、目指すべきところを分かってくれている」と、その成長に目を細めます。

さらなる高みを目指して

さらに「高校生になっても続けてくれる子がいることがうれしいです。継続してきた

からこそ演技に幅が出てきました。また、年下の面倒を見ている姿にも感心します」と、歌唱力だけでなく人間として成長してくれたことを喜びます。

「このミュージカルは恵まれている」と小椋さん。「本番で上演するホールを練習で使わせてもらえるし、保護者の皆さんもしっかり支えてくれています。また、町民や町の支えが大きいと思います。ミュージカルのような文化的取り組みにこれだけ力を入れている町はほかにはない」と言葉に力を込めます。

「これからも、できる限りかかわっていきたいですね」と、小椋さんは今後も町の誇りとして、ミュージカルが続くことを期待していました。



歌唱指導
小椋 美香子さん (米子市)